

製品名: MAG (3J13) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe13565

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	69kDa

抗原情報

遺伝子名	MAG
別名	GMA; MAG; S MAG; SIGLEC4A; SPG75;
遺伝子 ID	4099.0
SwissProt ID	P20916
免疫原	ヒト MAG/GMA の合成ペプチド

背景

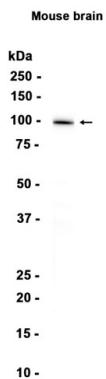
出生後の神経発達における接着分子であり、シアリン酸依存性の神経細胞と髄鞘形成細胞との細胞間相互作用を媒介する。α-2,3 結合

シアリン酸に優先的に結合します。神経細胞のシアリン酸含有ガングリオシド、糖タンパク質 RTN4R、および RTN4RL2 に結合して、髄鞘形成細胞と神経細胞との相互作用を媒介する接着分子です（類似性による）。初期の髄鞘形成には必須ではありませんが、正常な軸索髄鞘形成の維持に役割を果たしていると思われます。運動ニューロンをアポトーシスから保護し、損傷後にも保護します。アポトーシスに対する保護は、おそらく神経細胞の RTN4R および RTN4RL2 との相互作用を介して行われます。成体における髄鞘形成軸索の変性を防ぐために必要であり、これはおそらく軸索細胞膜上のガングリオシドへの結合に依存しています（類似性による）。神経突起伸展の負の調節因子です。背根神経節ニューロンにおける阻害は、主にニューロン RTN4R または RTN4RL2 への結合を介して行われ、ニューロンガングリオシドへの結合も、ある程度は介在します。小脳顆粒細胞における阻害は、主にニューロンガングリオシドへの結合を介して行われます。感覚ニューロンにおける神経突起伸長の阻害は、RTN4R、RTN4RL2、およびガングリオシドに部分的にのみ依存します。軸索の縦方向成長を阻害します（類似性による）。RTN4R への結合により軸索伸長を阻害します（類似性による）。 α -2,3 結合シアリン酸に優先的に結合します。ガングリオシド Gt1b に結合します（類似性による）。

研究分野

細胞接着分子 (CAM)

画像データ



MAG (3J13) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。